

「脱ムダ」で市政を変える！ 市政改革を前へ、前へ
小金井市議会議員／情報公開こがねい

週刊

渡辺大三 NEWS



【会派 NEWS】 2020(令和2)年 9月23日 週刊 vol.57

【ご意見ご要望はお気軽に】 〒184-0012 小金井市中町3-26-15-301

T 090-3345-6929 F 042-381-5074 watanabedaizou@gmail.com

公式サイト daizou.org (Twitter、facebook には公式サイトからアクセスできます)

「市長案」の重大欠陥、こうすれば是正できる！

庁舎^等建設、市民団体が対案

「経費削減」「大きなひろば」「安心の免震構造」を可能に

小金井市の庁舎と福社会館の建設は、パブリックコメントで寄せられた市民からの指摘を無視する形で基本設計を作成、現在はその基本設計をベースに実施設計を作成中です。

しかし、西岡市長が強行しようとしている設計案(以下「市長案」という)には、いくつかの重大な欠陥があり、市民や議会から改善を求める指摘が相次いでいます。西岡市長は聞く耳を持たず、「市長案」の強行を狙っています。

3つの重大欠陥 放置でいいのか？

重大な欠陥は…主として3つあります。

①ペットボトル処理施設の残存など、施工性が悪い状態で工事を行うので、工期が長期にわたり無駄な経費が発生する。

②駐車場や通路を「ひろば」と呼ぶなど、敷地内にまともな面積の「ひろば」空間が創出されない。駐車場と「ひろば」が隣接しているので、小さな子どもが遊ぶ場合に危険性がある。「ひろば」は建物北側なので陽当たりが悪い。

③市長や職員が執務する庁舎にだけ、大地震でもあまり揺れない「免震構造」を採用し、複合建築する福社会館には「免震構造」は採用しない。高齢者・障がい者・乳幼児などが多数利用する施設であり、将来にわたって不安が残る。また、「揺れない庁舎」と「揺れる福社会館」が複合建築されるため、大地震の際にどういう現象が起きるのか、建物利用者に危険が及ばないのか、きちんとした検

証が行われていない。

市長案、ついに108億円にも

市長案の総事業費は、いつの間にか約108億円にまで増大しています(これに借金の利息が加わりますが、市長側は、利息を含めると総額でいくらになり、どうやって支払っていく計画なのか、いまだに明らかにしていません)。市長案は、「ビフォアーコロナ」…つまり新型コロナウイルス感染症が発生する前に決められた内容です。コロナの社会経済への影響が極めて甚大となっており、庁舎・福社会館建設は「大胆な経費削減」をキーワードに設計の抜本的な見直しが必要です。

「市民の利益」こそ優先すべき

これに対して、市民団体「庁舎と福社会館の建設を考える会」は、今月、小金井市内に在住する設計の専門家の力を借りて、市長案の重大欠陥を抜本的に是正して、市民の利益を優先すべく、「対案」(以下「市民案」という)をとりまとめました。

市民団体は、来月、「市長案」と「市民案」のどこがどう異なるのか、詳しい図面なども掲載した印刷物を市内全域に配布する方針です。その印刷物には、署名ができる請願ハガキ(料金受取人払)もついています。ぜひご署名にご協力願います。

裏面に「徹底比較」を掲載

「市長案」と「市民案」徹底比較！

どちらが「現在と将来の市民」のためになるのでしょうか？

西岡市長が強行を狙う案 (市長案)	比較項目	市民団体が公表した対案 (市民案)
既存のペットボトル処理施設をそのままにして工事を行うため、 <u>庁舎・福社会館は敷地の南端ぎりぎりに寄せて建てざるをえない</u> 。全体として施工性(工事のしやすさ)が悪く、工期が長くかかる分、余計な経費が発生する。十分な「ひろば」が確保できないのも、これが主な原因。	建物の位置	まず、ペットボトル処理施設を旧リサイクル事業所の建物に移設。ペットボトル処理施設を撤去することにより、 <u>庁舎・福社会館の建設位置を10メートルほど北側に移動して建設</u> 。これにより、 <u>庁舎・福社会館の南側に大きな空地(約3000㎡)を設け、ここを工事拠点にすることにより施工性(工事のしやすさ)を向上させ、工期を飛躍的に短縮し、経費削減を実現することができる</u> 。
1万7130㎡ ※内2130㎡は地下駐車場などの面積。	床面積	1万5000㎡ ※執務スペース、市民スペースの床面積は市長案と同等。
庁舎・福社会館の北側にある <u>通路や駐車場などを「小金井ひろば」と呼ぶ「看板に偽りあり」の変な計画</u> 。庁舎の陰になって陽当たりも悪い。駐車場と隣接しているので、子どもが安心して遊べない。おおよそ「ひろば」と呼べるスペースではない。	ひろば	庁舎・福社会館の南側の <u>大きな空地(約3000㎡)は、建物完成後は「ひろば」として整備</u> 。陽当たりの良い広々とした「ひろば」が確保できる。なお、駐車場は建物北側に配置するので、駐車場と隣接しない安全な「ひろば」となる。子どもたちが伸び伸びと遊べるような空間として整備。 ※現在の庁舎建設予定地にある「ひろば」は約3000㎡。
市長、職員が執務する庁舎部分には、大地震でもあまり揺れない「免震構造」を採用する。一方、 <u>高齢者・障がい者・乳幼児なども数多く利用する福社会館部分は、建築費抑制のためと称して、採用しない方針</u> 。	耐震	<u>高齢者・障がい者・乳幼児なども数多く利用する福社会館部分も、庁舎と同等に「免震構造」を採用し、将来にわたって安心して使うことのできる市民施設とする</u> 。 ※「免震構造」を採用しない場合、大地震が来た場合には、激しく大きく建物が揺れることになる。
84億4000万円(税込) ※建設費以外の経費も含めると約108億円となる。なお108億円には起債(借金)の利息は含まれていないので、総額はさらに増大することが確実。	建設費	68億2000万円(試算)(税込) ※工期を短縮すること、駐車場を地下ではなく地上に設置すること、建物の形状が簡素、などの理由で大幅な経費節減となる。
27か月 ※福社会館は14か月、庁舎は27か月。	工期	17か月 ※福社会館、庁舎とも17か月。同時着工、同時竣工。

「市長案」の強行を狙う議員らは、上記のような違いがあることを知りながら、市民に知らせようとしていません。少々の違いならともかく、ここまで「かかる経費」と「得られる施設」に大きな違いが生じる以上、現在の設計(市長案)は抜本的に見直すべきです。いったん建てれば、「100年使う」ことを想定している庁舎と福社会館です。「なんでもいいから建てばいい」と言わんばかりの市長の姿勢は問題です。「コストダウン」「安全で十分な面積のひろばの確保」「大地震でも安心の福社会館」を実現させましょう。

◆渡辺大三略歴◆ 1966年5月2日、岩手県水沢市(現:奥州市)生まれ。秋田県横手市、宮城県仙台市、山形県山形市を経て、9歳から小金井市在住。小金井市立本町小学校・小金井市立小金井第一中学校(桜町)、東京都立小金井北高等学校(緑町)、中央大学法学部を卒業。株式会社河北新報社(本社:仙台市)に就職し、新聞記者。衆議院議員秘書を経て、男性最年少の26歳で小金井市議選初当選(以降7期連続当選/最近4回の選挙はいずれも無所属で立候補)。「週刊渡辺大三 NEWS」「情報公開こがねい NEWS」で市政情報の公開を続ける。【現在】小金井市の地域政党「情報公開こがねい」共同代表。東京の地域政党「自由を守る会」幹事長。小金井市商工会参与。貫井北町商工振興会事務局長。中町親愛会相談役。中央大学学生会小金井支部副支部長。小金井北高等学校同窓会幹事長。